



活用しよう！
相談と支え合いの場

がん患者さんにご家族を支える 地域づくりに向けて

帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科

渡邊 清高

がん医療フォーラム 2023
活用しよう！相談と支え合いの場
2023年11月26日

がん医療フォーラム2018
がんを知り、**がん**と共に生きる社会へ



がん医療フォーラム2017
がん患者さんを**地域**で支える
市民が望むがん**医療と福祉**のかたちとは



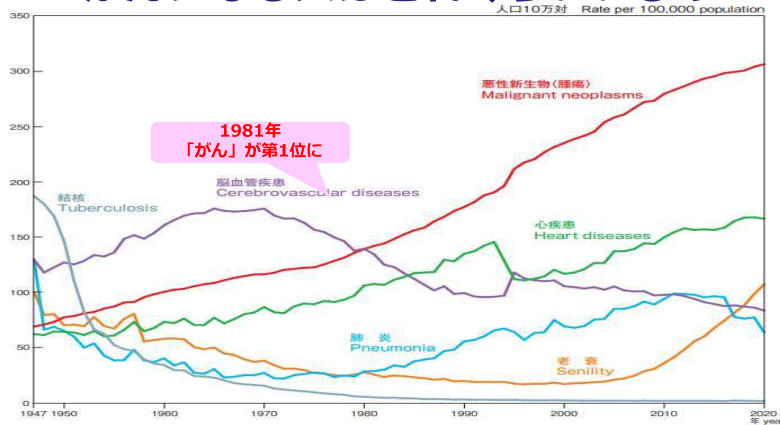
がん患者さんにご家族を支える 地域づくりに向けて

1. がん対策とがん医療のこれまでとこれから
2. 患者さんにご家族を支える「チーム医療」
3. 情報を届ける 地域で支える 多職種チームケアに向けて

がん患者さんにご家族を支える 地域づくりに向けて

1. がん対策とがん医療のこれまでとこれから
2. 患者さんにご家族を支える「チーム医療」
3. 情報を届ける 地域で支える 多職種チームケアに向けて

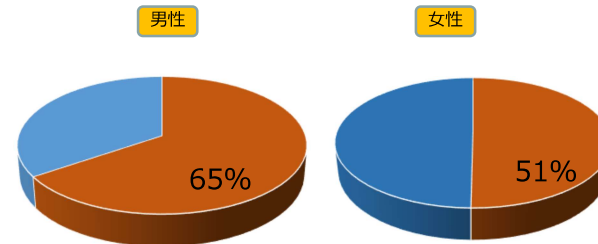
がんになる人はどれくらいいるの？



年間38万人の方ががんで亡くなり、
1年間で99万人の方が新たにがんと診断されています。
(死亡 2021年データ、罹患 2019年データ)

がんの統計2023 がん研究振興財団

日本人の2人に1人ががんになる

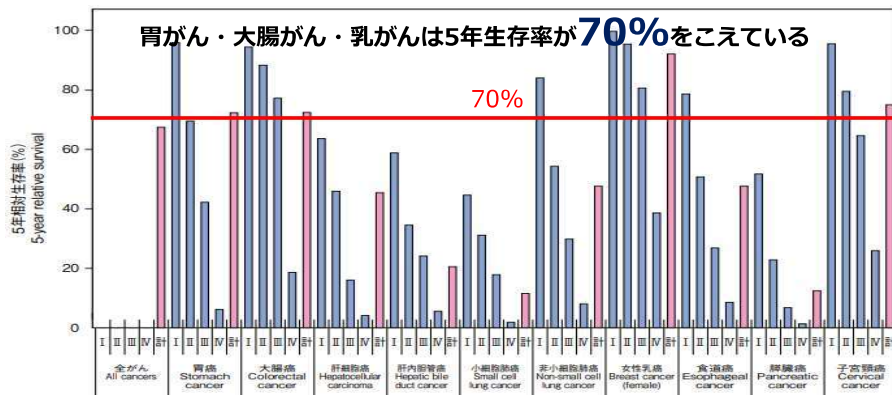


生涯でがんに罹患する確率 (2019年)
= 生涯累積罹患リスク

国立がん研究センターによる推計値

3

医療の進歩 患者と家族を支える社会へ



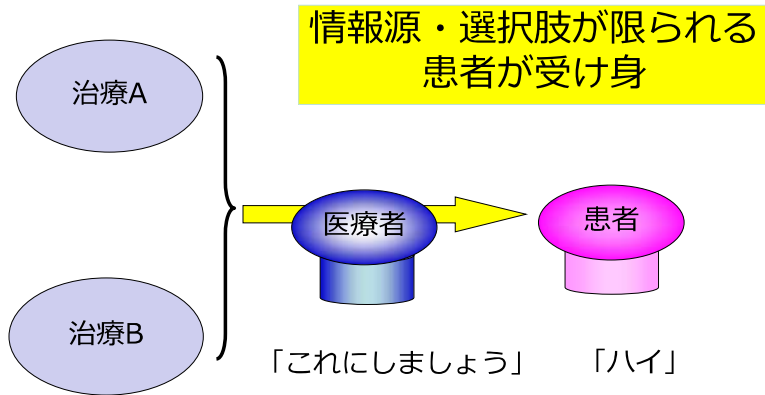
がんの5年相対生存率 (2013-2014 診断例)
がん診療連携拠点病院等UICC TNM分類総合ステージ別 男女計

がんの統計2023 がん研究振興財団

がん対策の歩み

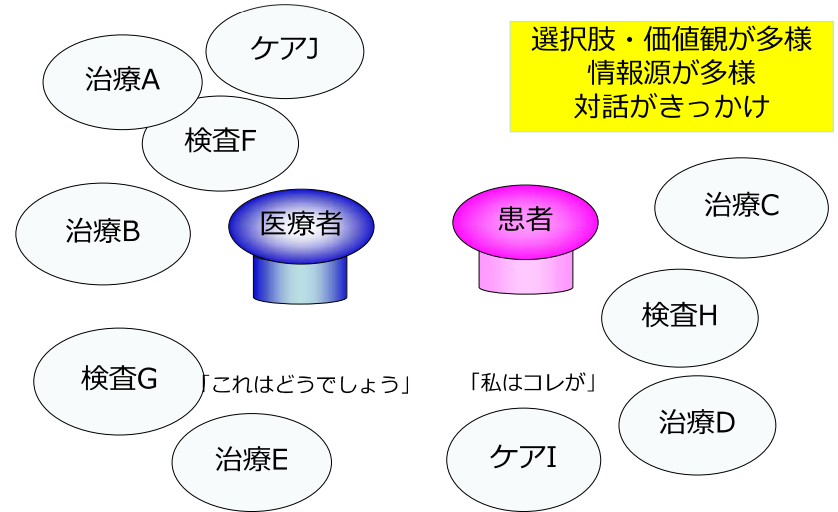
- 1963 厚生省がん研究助成金制度の発足
- 1981 悪性新生物が死亡原因の第1位となる
- 1984 対がん10カ年総合戦略の策定
- 2004 第3次対がん10カ年総合戦略の策定
- 2005 がん対策推進本部の設置 (厚生労働省)
- 2005 がん対策推進アクションプラン2005
- 2006 がん対策基本法成立
- 2007 がん対策基本法施行、がん対策推進基本計画策定
- 2009 がん検診50%推進本部の設置 (厚生労働省)
- 2012 がん対策推進基本計画 (第2期)
- 2015 がん対策加速化プラン (厚生労働省)
- 2016 がん登録推進法施行
- 2017 がんゲノム医療中核拠点病院等整備指針
- 2018 がん対策推進基本計画 (第3期)
社会におけるがん (就労支援・雇用主/保険者の役割・がん教育)
- 2023 がん対策推進基本計画 (第4期)
都道府県・地域における役割、PDCAサイクル

これまでの お任せ医療



9

これからは 「話し合う」 医療

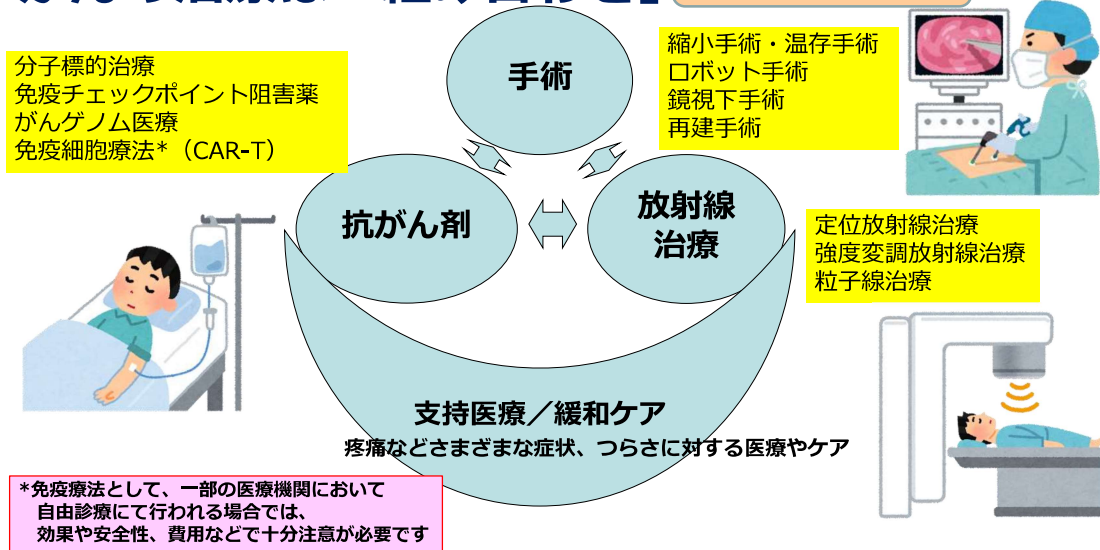


10

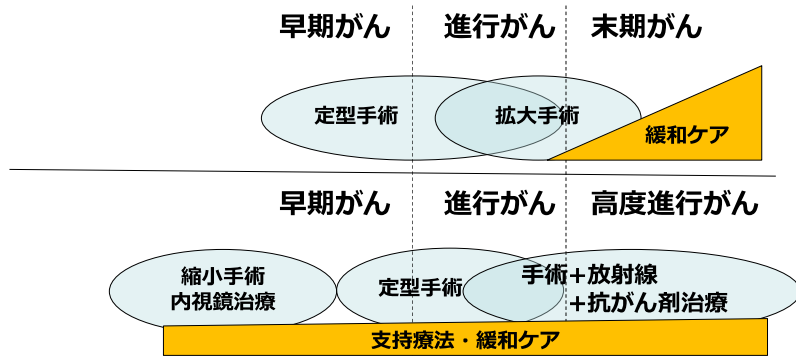
第4期がん対策推進基本計画（令和5年3月28日閣議決定）概要

第1. 全体目標と分野別目標 / 第2. 分野別施策と個別目標	
<p>全体目標：「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」</p>	
<p>「がん予防」分野の分野別目標 がんを知り、がんを予防すること、がん検診による早期発見・早期治療を促すことで、がん罹患率・がん死亡率の減少を目指す</p>	<p>「がん医療」分野の分野別目標 適切な医療を受けられる体制を充実させることで、がん生存率の向上・がん死亡率の減少・全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す</p>
<p>「がんとの共生」分野の分野別目標 がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す</p>	
<p>1. がん予防 (1) がんの1次予防 ①生活習慣について ②感染症対策について (2) がんの2次予防（がん検診） ①受診率向上対策について ②がん検診の精度管理等について ③科学的根拠に基づくがん検診の実施について</p>	<p>2. がん医療 (1) がん医療提供体制等 ①医療提供体制の均てん化・集約化について ②がんゲノム医療について ③手術療法・放射線療法・薬物療法について ④チーム医療の推進について ⑤がんのリハビリテーションについて ⑥治療法の推進について ⑦がんと診断された時からの緩和ケアの推進について ⑧妊孕性温存療法について (2) 希少がん及び難治性がん対策 (3) 小児がん及びAYA世代のがん対策 (4) 高齢者のがん対策 (5) 新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装</p>
<p>4. これらを支える基盤 (1) 全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進 (2) 人材育成の強化 (3) がん教育及びがんに関する知識の普及啓発</p>	<p>3. がんとの共生 (1) 相談支援及び情報提供 ①相談支援について ②情報提供について (2) 社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援 (3) がん患者等の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援） ①就労支援について ②アピアランスケアについて ③がん診断後の自殺対策について ④その他の社会的な問題について (4) ライフステージに応じた療養環境への支援 ①小児・AYA世代について ②高齢者について</p>
<p>第3. がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項</p>	<p>5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化 6. 目標の達成状況の把握 7. 基本計画の見直し</p>

がんの治療は「組み合わせ」 集学的治療



がん治療の考え方が変わってきています



かつては、がん治療を尽くして効果が見込めなければ、「緩和ケア」という考え方が主流でした。

集学的治療、緩和ケアや支持医療の進歩により、生活の質（クオリティ・オブ・ライフ：QOL）や予後の改善、治療の有効性・安全性が証明されることで、さまざまな戦略がとられるようになってきています。

尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築に向けて （患者体験調査より）

1) 自分らしい日常生活を送ることができている

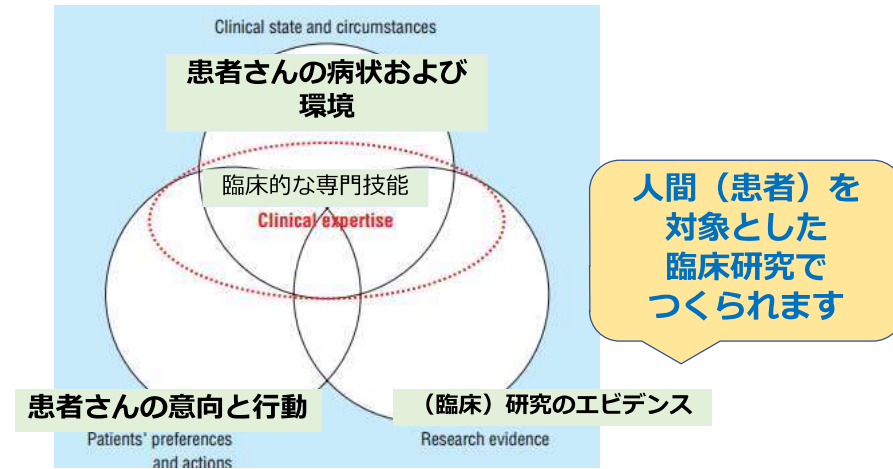
数値
70.5% [80.8%] (※)
76.3%
成人： 48.7% [57.6%] (※) 小児： 39.7%

2) 診断～治療開始前に病気や療養生活について相談できた

3) 家族の悩みや負担を相談できる支援が十分である

2018年度患者体験調査
2019年度小児患者体験調査（国立がん研究センター）

根拠に基づく医療（EBM:エビデンス・ベースド・メディスン）



BMJ 2002;324:1350

緩和ケアの提供（患者体験調査より）

- 1) 心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できる
- 2) 身体的な苦痛を抱えている
（痛みに限らず、吐き気、息苦しさ、だるさ、しびれ、かゆみなど体のつらさを含む）
- 3) 精神心理的な苦痛を抱えている
- 4) 身体的・精神心理的な苦痛により日常生活に支障を来している

数値
32.8%
44.6%
38.0%
30.8%

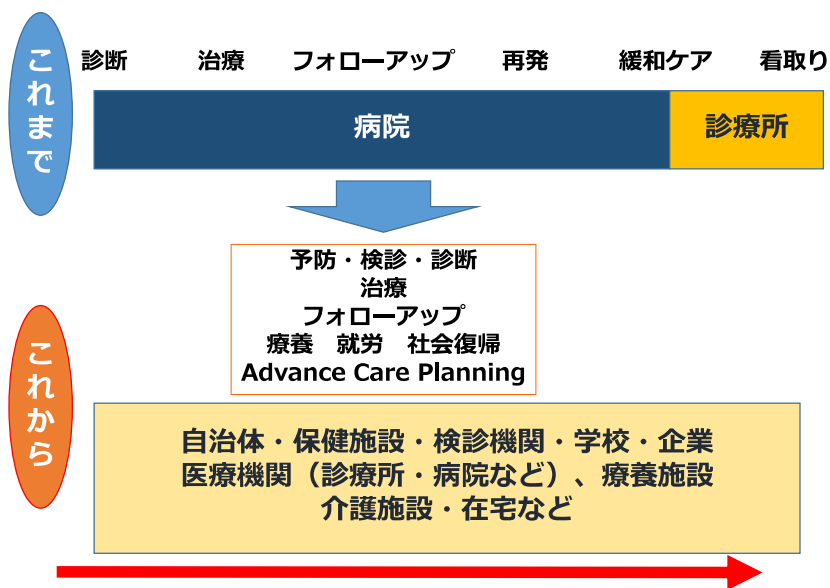
2018年度患者体験調査（国立がん研究センター）

療養生活の最終段階における苦痛

- 1) 療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えている
- 2) 療養生活の最終段階において、精神心理的な苦痛を抱えている

数値
40.4%(痛み)
47.2%(からだの苦痛)
42.3%

2018年度がん患者の療養生活の最終段階における実態把握事業（厚生労働省）



がん患者さんご家族を支える地域づくりに向けて

1. がん対策とがん医療のこれまでとこれから
2. 患者さんご家族を支える「チーム医療」
3. 情報を届ける 地域で支える 多職種チームケアに向けて

「話し合える」関係からチーム医療へ



病院内チーム：手術、放射線治療、抗がん剤治療などのがん治療の急速な発展により、高度な集学的治療の提供が可能になる一方で、複数の専門職による関与が不可欠になりました。



地域医療チーム：一方、高齢化社会によるがん患者の増加、支持療法の進歩、患者のQOL重視の視点などから、がん治療は入院から外来にシフトしつつあるため、病院外の専門職の関わりが必要になってきています。



地域包括ケアチーム：さらには、生活者としての患者・家族を支えて治療を行う、看取りを含めたケアを住み慣れた環境で実現するための、介護福祉関係者、行政、市民を含めたチームという考え方も広がりつつあります。

60歳代 男性



高血圧と高脂血症で治療中
健康診断では血圧が高いことと、塩分を控える、たばこをやめるよう言われている

ラーメン、お好み焼き大好き



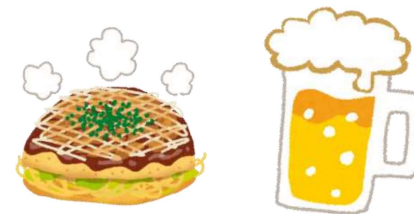
最近食欲がない
何となくお腹が重い感じがある

仮想症例

検査で異常あり 近くの拠点病院へ
胃がん 手術と抗がん剤治療



「大変だったけどこれで家に帰れる」
「一服したいし、しょっぱいのもそろそろ」



仮想症例

- ・ 検査と診断の流れ
- ・ 入院前の準備
- ・ 開腹手術による治療
- ・ 痛みのコントロールとリハビリ
- ・ 立つ、歩く、運動する、体力をつける
- ・ 後遺症の予防とケア
- ・ 食事と栄養の工夫
- ・ 減塩食・卒煙（禁煙治療）
- ・ ストレスコントロール
- ・ 退院後のリハビリへの移行



仮想症例

インターネットを上手に活用する

国立がん研究センター がん情報サービス

がん情報サービス ganjoho.jp

病名から探す | 治療と生活 | 制度やサービス | 世代別の情報 | 予防・検診 | 資料室

確かながんの情報をお届けします

当サイトは、国立がん研究センターが運営する公式サイトです。

「患者・市民パネル」を募集します。応募締切は2024年1月12日（金）です。

ピックアップ

- がんと診断されたあなたに知ってほしいこと
- ご家族、まわりの方へ
- セカンドオピニオン
- 新型コロナウイルス感染症Q&A
- 免疫療法
- がんゲノム医療とがん遺伝子検査

<https://ganjoho.jp/>

がん情報 検索

がん対策応援団
「患者・市民パネル」
募集中です

がんになったら手にとるガイド



手にとれる手引き

心構え
療養のヒント
生活支援
用語集

手帳、記録

わかったこと
わからないこと
聞きたいこと

地域の情報

身近な地域の
医療機関
相談窓口

書籍・手帳 患者必携 がんになったら手にとるガイド 2013
学研メディカル秀順社
インターネット「がん情報サービス」でも無料で閲覧可

がん患者さん・ご家族向け「地域の療養情報」

42道府県で公開（2023年5月現在）（ ）内数字：改版数、記載なし：不詳



がん患者さんにご家族を支える 地域づくりに向けて

1. がん対策とがん医療のこれまでとこれから
2. 患者さんにご家族を支える「チーム医療」
3. 情報を届ける 地域で支える 多職種チームケアに向けて

患者さんにご家族をつなぐ在宅療養ガイド

<https://plaza.umin.ac.jp/homecare/> **がんの在宅療養**

地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報普及と活用プロジェクト

HOME 在宅療養ガイド 活動・フォーラム

みんなで支える チームで支える

「がんの在宅療養」サイトは在宅療養に関する情報をがん患者さんのご家族、医療従事者、介護・福祉スタッフ向けに提供しています。

ご家族のための 在宅療養ガイド Home Care Guide PDF版公開 hml版は日本語です ぜんぶ読む

必要などころから読む

- 第1章 在宅での療養を始める
- 第2章 「最期のとき」に向き合うこと
- 第3章 人生の最期をともに生きる
- 第4章 お別れの時期

2015年公開 全文を無料で読める がん診療連携拠点病院に見本版を提供 2016年書籍化 2022-23年改訂プロジェクト

がん医療フォーラム 仙台 2015



改訂プロジェクト2023

患者さんご家族をつなぐ在宅療養ガイド

第1章
在宅での
療養を始める

第2章
「最期のとき」に
向き合うこと

第3章
人生の最期を
ともに生きる

第4章
お別れの時期

? 在宅療養にかかわる
用語集

✍ 体験談とメッセージ
ご家族の手記

- ・心構え
- ・最期のとき・お別れのとき
- ・家族・支援者としてできること

2020年以降 新型コロナウイルス感染症
「がん」と「在宅」でのニーズが増加

改訂プロジェクト2023

ご協力いただいたご本人・ご家族・医療者より（抜粋）

- ・これからのことを考えるとき **参考になる**
- ・ご本人・ご家族の声があり **わかりやすい**
- ・そのときの具体的な様子があるのは、**不安を和らげてくれる**と感じた
- ・ご本人・ご家族のエピソードから、**最期の時だけじゃない**ことがわかる
- ・**共感し、寄り添うメッセージ**が大切
- ・心構えや備え、手続きの説明が**具体的**でよい
- ・拠点病院・診療所・地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、調剤薬局、患者会、図書館など、**手に取れる場所**にあるとよい
- ・自分のとき、家族のときに**こういう情報がある**とよかった
- ・医療者や支援者、**関わる方々に知ってほしい**情報

改訂プロジェクト2023

1. 在宅での療養を始める
2. 通院での治療を始める・続ける
3. 社会とのつながりを保つ
4. 住み慣れた場所で健やかに、安心して暮らす
5. 生きること、生ききることに向き合う
6. 人生の最後をともに生きる
7. お別れのとき

治療の有無・病状によらず
いつでも、どんなときも役立つ**情報**を
情報の備えを **話し合うきっかけ**を提案します

在宅で役立つ情報をQA（質問と答え）形式で

在宅がんウィット

がんを患った方が在宅で過ごすときに役立つ情報をお届けします

Q&A情報の検索

本サイトの特徴

がんを患った方が在宅で過ごすときに役立つ情報について、さまざまな分野のエキスパートがQ&A形式でお届けします。



がんを患った方ご家族・支援者のためのQ&A



在宅での療養にすぐ役立つ情報



さまざまな分野のエキスパートが執筆



最新の知見に基づく内容



特定の商品の推奨や利益誘導をしない



ご利用は無料

知りたいことはなんですか？

例: 歩行器

よくある質問

- 本サイトの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応
- 在宅療養のための準備や本人の心構え
- 退院して在宅療養を始めるときの相談先
- 病院の看護師と訪問看護師の違い
- 訪問看護サービスの具体的な内容

言葉のヒント

A-Z 24時間 24時間対応加算 2分所 2人 65歳未満 COVID-19 CVポート FAQ一覧 HOT
IVH NPO法人 PCR検査 Q&A一覧 QOL
あ 相性 垢 足湯 アドバイス アルコール アロマセラピー 安心 言い難い 言いにくい
息切れ 居心地 葛思 医師 医者 依存性 痛み 痛み止め 痛みのコントロール
痛み抑制剤 一人 一般人 一般の方 移動援助 田舎 医療保険 医療保険証 医療用医薬
陰性 インフルエンザ 隨即洗浄 受持ち制 栄養 栄養管理 遺ひ方 往診 嘔吐 多く

ご本人の価値観、ゴール、意向

病状の評価

体調、痛み、不安、QOL（生活の質）、
ご本人の理解と認識

きっかけは
誰からでもできる
ように

今後の見通し

予測とともに、不確実性も考慮

治療の評価

抗がん治療、支持医療、緩和ケア

将来のときに向けた
アドバンス・ケア・プランニング
治療の意向、緩和ケア・在宅療養の希望

がん患者さんをご家族を支える
地域づくりに向けて

いつでも、どのタイミングでも
早いほうが、対応の選択肢は広がります

- ・診断・治療・在宅療養
- ・リハビリ・栄養・社会生活の維持

「考えよう」
「話し合おう」
「伝えよう」



ご参加の方のお声から

- ・がんの**治療の現状**を知りたい
- ・退院後の**生活**
- ・**治療費**について知りたい
- ・**治療と緩和ケア**について知りたい
- ・**がん相談支援センター**の利用の仕方を知りたい
- ・主治医と**相性が悪い場合**、どうすればいいか
- ・医療チームとどうすれば**話し合いの時間**を持てますか 希望や思いが変わったときはどうすればよいか
- ・**グリーフケア**についても聞きたい
- ・**家族ががんになったとき**、助けてあげられることはないか
- ・治療しながら**仕事を続けたい**ときに相談してよいか 会社に伝えるのは難しいですか

第9回日本がんサポーターケア学会学術集会 (#JASCC24) プレイベント 市民公開講座

学術集会 in Cancer (JASCC) JASCC

私たちの夢をかたちにするがん定額診療

2024年5月18日(土)~19日(日)

2024年5月18日(土)~19日(日) (さいたま市晴栄)のイベントとして開催します

2024年2月17日(土) 13:00~15:00 開場 12:30

#JASCC24



第9回日本がんサポーターティブケア学会学術集会

The 9th Annual Meeting of the Japanese Association of Supportive Care in Cancer (JASCC)

2024年2月17日(土) 13:00~15:00 開場 12:30

会場 帝京大学板橋キャンパス 臨床大講堂(本館棟2階)、オンラインとのハイブリッド
東京都板橋区加賀2-11-1 帝京大学板橋キャンパス(JR埼京線十条駅下車 徒歩約10分)
共催 第9回日本がんサポーターティブケア学会学術集会(#JASCC24)、
 帝京大学医学部附属病院 **後援** 板橋区医師会、東京都北区医師会、
 練馬区医師会、豊島区医師会

対象：がんの患者さんとそのご家族、がん経験者(がんサバイバー)、がん患者さんの治療・
 支持医療・ケアについて関心のある方、医療従事者、介護福祉関係者、行政担当者など

総合司会 渡邊 清高 (帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科、
 第9回日本がんサポーターティブケア学会学術集会(#JASCC24)大会長)
司会 佐伯 俊昭 先生 (埼玉医科大学国際医療センター病院長、日本がんサポーターティブケア学会理事長)
 澤村 成史 先生 (帝京大学医学部附属病院院長)
齋藤 英治 先生 (板橋区医師会会長)

講演1 知っておきたいがんロコモ
 -オンライン・オンラインペダイクスという新たな領域-
 河野 博隆 先生 (帝京大学医学部整形外科講師)

講演2 診察室の内と外からの患者・市民参画
 有賀 悦子 先生 (帝京大学医学部腫瘍内科講師)

講演3 みんなでくろう！
 “仕方ない”の無い医療を
 櫻井 なおみ 先生 (一般社団法人CSRプロジェクト)

聴講料 関 順彦 先生 (帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科)

参加方法 ● 下記URLまたは二次元コードからお申し込みください。

お申し込み https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_GlnnFHMrs5qb_lpkjdQ_BA

事前申込締切 2024年2月13日(火) 現地参加、オンライン参加の方も事前申し込みが必要です。

※会場申し込みが定員に達した場合は、オンライン参加をお願いする場合があります。ご了承ください。
 お車でお越しの場合、病院の駐車場は利用できません。公共交通機関をご利用ください。

事前申込制
参加費 無料
定員 会場 150名
 オンライン 300名



第9回日本がんサポーターティブケア学会学術集会

The 9th Annual Meeting of the Japanese Association of Supportive Care in Cancer (JASCC)

私たちの夢をかなえる
 がん支持医療

Cancer Supportive Care Makes Our Dreams Come True

2024 5/18(土)・19(日)

● **会場** 埼玉会館 〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4
 ● **会長** 渡邊 清高 帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科

演題募集期間 2023年10月4日(水)~12月20日(水)



<https://www.jascc2024.org/>

#JASCC24

ご清聴ありがとうございました

がんを知り
 がんと向き合い
 がんになっても安心して暮らせる社会づくりを

